

留学報告

イギリスへの留学

長崎外国語短期大学
二年 有田優華里

私は二年次の春学期の間、英国に約五ヶ月間留学をしました。短い期間ではありましたが、たくさんのごとを学び、充実した毎日を送ることができました。

私は期間中、様々な活動に積極的に参加するようにしていました。ボランティアや学校行事、自分で旅行を計画し、ロンドンやリバプールへも行きました。また、ペリダンスのクラスへ行き、学校以外での友達を作ることも、英語での習い事を楽

しみました。そして、できるだけたくさんの人と触れ合い、できるだけ多くの人と話すように、常に心がけていました。ホストファミリーはもちろんのこと、クラスメイトや先生方も毎日たくさん話をしました。日本では考えられないことかもしれませんが、バス停で老夫婦と一時間近く話したこともあり。それから、散歩中に会った人と公園でアイスを食べた



また、周りで支えてくれていた方々のことを常に思って生活をしていました。家族や先生方、友人は本当に精神面で支えとなり、特に両親は金銭面でも私を大きく支えてくれました(笑)。留学期間中に、誰かに弱音を吐いたことは一度もありませんが、いつでも心の中で支えとなる仲間がいてくれたことは、本当に幸せなことだと思っています。

これからの経験を活かして、日本の、いや世界の未来を背負っていきたくと思っています。

学生インタビュー

全日本スペイン語弁論大会でスペイン大使賞を受賞した増留愛香さん(大学三年生)にお話を伺いました。

弁論大会でスピーチした内容はどんなことでしたか?

自分の、特に留学中の経験や考えをもとに話しました。昨年メキシコに半年間留学したのですが、そのときメキシコ人の友人のお母さんから聞いたことがばかにも心に残っていて、それは、「わたしは、お金持ちではないけれど、恵まれてるのよ」というものでした。ここで

の「恵まれてる」は、スペイン語では「おいしい」の意味もあって、ここから生きる上で本当に大切なものは何かということを考えさせられました。メキシコは日本より格差が大きいとわたしには見えましたが、そうしたこととは関係なく、多少金

スペイン語スペイン文化コース
第四二回全日本
スペイン語弁論大会
スペイン大使賞 増留愛香



増留さん

ドイツ語ドイツ文化コース 第七回 全国ドイツ語 スピーチコンテスト

十月十二日にドイツ連邦共和国大使館で「第七回 全国ドイツ語スピーチコンテスト」の本選が行われ、ドイツ語ドイツ文化コースから三名が出場しました。本選出場者は十三名で、本学からの三名は七位までに全員入賞し、以下のような賞を受賞しました。

- 前田雄一郎 第四位 努力賞
 - 赤川 絢子 第六位 ユニーク賞
 - 外輪 康宏 第七位 チャレンジ賞
- 本選への

サークルさるく

茶道部

部長 大学3年 志賀 真弓



私たち茶道部は、毎週木曜日の午後から外部の先生方にお越しいただき、本学の茶室「緑風亭」で、活動しています。主に、お点前の練習、学外へ足を運ぶ学校茶道、チャリティーへの参加と多岐にわたります。外国語大学ならではの特徵として、部員には外国人の方も多く所属しています。一生懸命練習に取り組む留学生の姿を見て、日本の伝統文化の重要性を学び、異文化に暮らす私たちの何気ない違いを認め合うことができます。茶道を通して、国境を越えた交流を楽しんでいます。

ソフトテニスサークル

部長 大学2年 海田 聖彦



こんにちは！ソフトテニス部です。私たちは、体育館横のテニスコートで月曜から金曜まで、男女仲良く活動しています。多くの方々からの支援のもと、日々一生懸命取り組んでいます。部員は個性溢れるメンバーばかりで、笑顔の絶えないとても雰囲気の良い部活です。少しでも興味のある方は、ぜひ一度テニスコートをのぞいてみてください。もちろん未経験者でも大歓迎です！また、大学や保護者会からの支援費等を大切にに使わせていただき、これからも部員で力を合わせて頑張ります。

銭的に豊かではなくても人々は笑顔で愛情を大切に、幸せに暮らしているように思えました。例えば贈り物でも、メキシコでは時間をかけて自分で作ります。そういう時間の使い方は羨ましいと思ひ、物質的にも精神的にもより豊かだと感じました。

留学時の様子を教えてください。

わたしは、もともと人と話をするのが好きなのですが、店員さんや道で話しかけられたタクシースの運転手さん(笑)などとも話しくみしました。今でも日本の店員さんといひ話し過ぎてしまいますね(笑)。

課外活動では、フラメンコ部がばっていますね。

フラメンコ部の他、ダンス部にも所属しています。ダンスは高校時代から続けていて、ダンスのことだけではなく、人として大切なことを学

んできました。人の意見を聞き、自分の意見を話すなど、簡単なようで意外と難しいことも多々あります。力となる自信へと繋がっています。学校生活や将来の希望についても教えてください。

スペイン語コースは、色んな行事などを通じて個々の繋がりが強いです。とにかく話して飽きない、個性的な人が多し(笑)。お互いいい意味で影響しあっていますね。

将来のことは、留学を経験して、「現実の世界」(日本社会の、という狭い意味ではありません)がクリアになってきて、本当にすべきことは何かを考えるようになりました。それで、今自分の希望や将来のことを見直しています。

(聞き手…企画広報係)

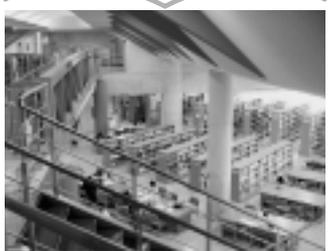
ながさき県民大学主催講座

「ながさき県民大学」と連携した十回シリーズの講座を、前年度に引き続き、平成十九年度の秋学期に本学にて開講しました。テーマは「東アジアの隣人たちーことば・歴史・交流の視点から」。東アジア世界は古来、地域間の勢力図を変えつつ、様々な影響を及ぼしてきて発展してきましたが、多極化へと向かう世界の流れの中で、重要性を増しています。本講座の目的はこの地域についての古代から現代にいたるまでの歴史から、新しい文化論・コミュニケーション

ジョン論等を学ぶことよって、この地域を先端的な視点から俯瞰し、新しい東アジア像を呈示しながら、県民のみなさんと共に考えたいということして。既に十回が滞りなく実施され、十一月二十七日に終了しました。今年度は申し込み時より多数の御応募をいただき、また、御登壇の皆様は優秀な出席率で講義室は常にほぼ満員状態でございました。最後までご参加いただいた皆様様に厚く御礼申し上げます。(事務局・総務課企画広報係)



ライブラリー便り



はじめの「ライブラリー便り」ですので自己紹介からいたしましょう。本学の図書館はマルチメディア・ライブラリーという名称で呼ばれています。一九九六年四月、当地にオープンしましたが来る

べき情報化時代を見据えて、これまでの図書館からデジタルアーカイブをも含めたライブラリーを目指そうという思いから命名されたものです。ライブラリーにはいわゆる「本」のほかオーディオテープ、ビデオテープ、DVD、CDなどの視聴覚資料を多く収集し、館内で閲覧することが出来ます。また、海外のニュースやテレビ番組などを同時的に見ることが出来る海外衛星放送の受信装置があり、学生のみなさんは自発的積極的な学習のために利用しています。さて、そのライブ

楽しいき後と 癌と闘う気力を頂いて

受講生特別寄稿

安藤 富貴子

数年前に故郷、長崎に戻ってきました。二十年ぶりの長崎は、ずいぶん景色が変わり、近くの山の上には長崎外国語大学ができていました。長崎に



2007.7 ドイツヴィルツブルグシーボルト記念館内で館長(中央)と安藤ご夫妻

戻ろうと決めた時、心配したことが一つありました。住み心地のよい町だけに刺激が少なからず早く呆けるのではないだろうかということでした。でも長崎外国語大学が一般の人にも開かれていくと知って受けへる不安は吹き飛びました。今は機会があるたびに外国語大学に通い、いつも刺激を受けています。この夏期語学講座では英語・ドイツ語・中国語・スペイン語を勉強しました。講演会には何度も足を運んでいました。一流の方々の話が聞けるのですから贅沢な経験をさせて頂いていると思います。力

ズオ・イシグロに関する柴田氏の講演は特に楽しみでした。というのも十数年前「日の名残り」が映画化されました。これを観て感激し直ぐに英国へ旅行に行ったのです。田舎をドライブし、貴族の屋敷を見学していると主人公の執事になったような気がしました。私は映画や本を読んだりすると直ぐに影響を受けて、背景になっていく所に行きたくなってしまいます。困ったミーハーです。ところで楽しみにしていた講演の日ですが、急用で中国に行かなければならなくなりました。すばらしい話が聞けたらどうにと、とても残念に思っています。今年の県民大学講座のテーマは「東アジアの隣人たち」。福州市に住んだことがある私には興味深い話が出てきます。行ったことのある場所や知っている話でも専門家の話を聞

くと新たな発見があり、また行きたくなりました。それで、研修旅行付の講演や講座があればもっと楽しいのではと思うのですが、いかがでしょうか。またホームステイを引き受けた事もあります。男子学生でしたので息子が外国人になつて帰ってきたような気がして楽しい毎日でした。ホームステイはずっと引き受けるつもりでいたのですが、突然癌と闘う毎日になりました。残念ながらできないくなりました。大学のお役に立てなくて申し訳ないと思います。次は聴講生に挑戦しようと思っていたのですが、もう体力的に無理なようです。でも動ける間は今まで通りに通うつもりです。長崎外国語大学は楽しい老後ばかりでなく、癌と闘う気力まで与えてくれます。心より感謝申し上げます。



同窓会寄贈図書書架

ラリーも十年が経ち、取り巻く環境は大きく変化してきました。二〇〇一年度より長崎外国語大学が加わり、ライブラリーも短大生、大学生、留学生と、賑やかで活気に満ちたものになりましたが、教育プログラムの改新や卒業論文に取り組む学生、卒業後、他大学や大学院へ進学する学生が多くなり、より専門的、多様な資料の収集が求められるようになりました。しかし、予算等の問題もあり、学生の要望になかなか応えることが出来ずにおりましたが、昨年度、同窓会より最新の経済学関連図書四十三冊を寄贈して頂きました。実際に他大学の経済学部に進学しようとしていた学生が編入試験のためにこれらの図書を役立て、見事合格したことは喜ばしいこととして心に残ります。「ライブラリー」を自ら学ぶ場として日々研鑽し実力を蓄え、やがて社会において活躍する卒業生の姿を思い描きながら「一冊の重み」を感じる今日この頃です。(マルチメディア・ライブラリー事務局 岡村泰子)

地区別保護者懇談会報告

地区別懇談会は今年度で3回目を迎えます。今年度は9月29日に本学で長崎地区を、10月6日及び7日に福岡市、熊本市、大分市、鹿児島市の4か所で開催しました。

昨年度と異なった取り組みとして、今年度は、一つは長崎地区を本学で開催したこと、二つは開催時間を午後からとし最後に懇親会を配置したこと、三つはこの6月に発足した長崎外大保護者会から特に懇親会の運営支援を受けたことが新しい企画です。参加者数は全会場合わせて83名で、昨年度の比べて44名少ない結果となりました。大学側からは学長以下教員と職員を合わせて長崎会場は22名で他の会場10名の構成で参加しました。

参加者数は、地区別では長崎と大分地区が目立って少なかったが、熊本地区は逆の増加しました。学年別では例年多い1年次が少なかったことと大学4年次が過去2回の懇談会に参加した影響で少なかったのではないかと考えています。長崎地区が少なかったのは、6月23日に保護者会設立総会がありその際に総合教育相談会を並行して開催し

たことが影響したと思われます。

今年度は、保護者会が運営支援をする立場から、全地区とも保護者会役員が参加されました。特に、福岡会長が熊本・鹿児島、扇福会長が大分、吉谷副会長が福岡会場へ参加してごあいさつと保護者会からの報告を行いました。

(開催会場別)

長崎市	福岡市	熊本市	大分市	鹿児島市
23	18	19	7	16

(学年別)

短大1年	短大2年	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年
14	4	19	14	25	7

懇談会は、大学側から、学生生活、キャリア支援、海外留学の3点を中心に報告し、質疑応答の後、教育個別相談(希望者)に入り、終了後に参加者全員で懇親会という進行次第で行いました。教育相談では、延べ40項目に亘って相談があり、本学教師からそれぞれ助言をしていただきました。

懇親会は初めての実施でしたが、各地区とも和気あいあいとした雰囲気が進められ、アンケートでも好評でした。懇談会の運営について、昨年度実施した学生からの声を聞きたい、文化講演

も考えて欲しいとの声も出ていますので、来年度の企画で検討していくこととしています。

地区別懇談会の運営はどうであったか				計
よかった	普通	要努力	NA	
35	9	0	10	54
65	17	0	18	100

今回の企画についてどうであったか

今回でよい	文化講演を	学生の声を	NA
31	4	15	11
57	7	28	20

全会場とも、保護者の皆様のご協力をいただきながら、無事、予定したスケジュールで終わることができましたことを感謝申し上げます。

54名の参加者の皆様方から、貴重なアンケートをいただきました。各項目にわりまして、延べ66件の貴重なご意見をいただきました。長崎外国語大学・長崎外国語短期大学の教職員一同、ご意見にお応えできるよう、教育・研究、大学運営に努めてまいりたいと考えております。

拙文ではありますが、地区別懇談会の御礼を報告に代えさせていただきます。

(文責：事務局長土井信義)



先日「ぶどうの樹」第三号をお送りいただきありがとうございます。すべての記事を楽しみました。すべてが素晴らしい。事務局長はじめスタッフの皆さんの熱意を感じました。若干の読後感を述べさせていただきます。

読者のこゑ

①保護者会発足は大きな成果だと思えます。また、地区別保護者懇談会を実施されているとのことですが、非常に大切な活動だと思います。私も息子が在学中、大学の保護者懇談会に出席したことがあります。学長の話の聞いたり、個別面談で卒業生の進路や就職状況を聞いたりするなかで、大学と息子の期待が高まったことを思い出します。地域での面談が保護者の大学への信頼を高め、「ロコミ」で大学の名前や実績を地域に広げていくことにつながっていると思います。

②アンペロス通信の「七夕」にはほのぼのとした読後感を感じました。寮生の親が読むことで、大事な子供を預けている寮の雰囲気を感じ、安心できるような気がしました。

③「慰霊の日を迎えて」の企画は継続してほしいと思います。多感な青春時代を長崎で過ごす学生に、他ではみられない歴史・文化を学んでもらうことは大切だと思います。とりわけ、原爆の悲惨さをおして平和の尊さ、いのちの大切さ、社会のありようを学んでもらうことは学生のその後の人生にとって大きな意義があると思います。

④あの人は今、はなつかしく拝見しました。柴田氏とは昨年、中川氏と一緒に会いました。

⑤卒業生「トビックス」の岸信子さんの活躍はすばらしいと思います。卒業生・在校生に元気を与える企画をどしどしやっていただきたいと思えます。

長崎外大保護者会理事会報告

去る6月23日に長崎外国語大学・長崎外国語短期大学保護者会(略称「長崎外大保護者会」)が発足したことは既に周知のところですが、第1回7月28日、第2回11月3日にいずれも大学で理事会が開催されましたのでその概略を報告します。第1回理事会の議題は、①保護者会設立総会議事録承認、②2007年度における事業運営(賛助会員加入申込、地区別保護者懇談会の運営)、③予算の執行、④その他保護者会運営に関する全般的な事項でした。第2回理事会の議題は、①理事会議事録承認、②地区別保護者懇談会(報告)③2007年度保護者会会計中間報告、④賛助会員加入申込、⑤2007年度後半期における保護者会運営でした。

賛助会員加入については、大学・短期大学の教職員54名から申込があり加入が承認されました。地区別保護者懇談会については、支援費の支出と会長・副会長の各地区への参加が確認されました。予算執行に関しては、正会員の会費納入状況が228名であること、大学の教職員4名から寄附があったこと、学生奨励金の支出、課外活動支援費の支出、勤労奨学生助成の支出の確認がされました。特に、正会員の会費納入については、日本人学生数の半分程度にとどまっていることから、学生支援を主たる目的とする保護者会の役割と会費の80%以上がその支援に予算化されていることを訴えて、会費納入の協力を要請していくことが確認された。特に、今年度卒業を迎える会員の場合、卒業記念品助成が全員に行われることともあり、全会員の協力を重ねてお願いすることが確認された。保護者会からの学生支援の状況は以下のとおりです。

学生支援状況一覧

- ①九州インカレ出場旅費支援47名(男子ソフトテニス10名、女子同7名、バスケットボール11名、男子サッカー19名)
- ②参加奨励費11名(学内スペイン語スピーチ大会6名、学内日本語スピーチ・暗誦大会5名)
- ③学外スピーチコンテスト等参加支援旅費11名(九州フランス語7名、全国スペイン語1名、全国ドイツ語3名)
- ④課外活動団体支援費(22団体延べ416名)について、合計延べ485名に対して849,500円の支援を行っています。これに卒業記念品助成が加わると、さらに多くの学生がこの1年間で保護者会からの支援を受けることになります。

(報告者・文責：事務局長土井信義)

